

機関番号：80101
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20520724
 研究課題名（和文）ニヴフの植物資源利用および植物語彙に関する基礎情報の収集とデータベースの構築
 研究課題名（英文）A study for collecting basic information and constructing database on the plant resource utilization and plant names of the Nivkh
 研究代表者
 水島 未記 (MIZUSHIMA MIKI)
 北海道開拓記念館・学芸部・研究員
 研究者番号：70270585

研究成果の概要（和文）：

3年間で約2週間の現地調査を3回行い、多くの草本・木本植物についての利用情報が得られた。

特にベリー類については、採集時期・場所・環境等について、従来以上の詳しい情報を得ることができた。ベリー類とサケ・マスの身を組み合わせた伝統的な料理について、料理法についての詳細な情報が得られ、調理の様子を録画記録することができた。

ムカゴトラノオなど、既往研究では利用することが確認されていなかった植物種についても情報を得た。植物名称および関連語彙についても多く採録できた。

これらの成果は、ニヴフの伝統的および今日的な植物資源利用に新たな知見を加えるとともに、ニヴフ自身の文化伝承活動にも寄与する。

研究成果の概要（英文）：

We got a lot of information about the utilization of various herbs, shrubs and trees by the Nivkh people through conducting fieldworks three times in the three years.

About various berries, further information including gathering seasons, places and habitats was obtained. Detailed information about a traditional food, which is mixture of berries and salmon or trout, was obtained as well and the preparations of them were recorded on video.

Some plant species that were not confirmed to be used in the previous study, such as alpine bistort (*Polygonum viviparum*), were also found. Many plant names and related words in Nivkh language were also collected.

These results not only bring new knowledge about the traditional and modern usage of plant resources by the Nivkh, but also contribute to their own traditional cultural activities by the Nivkh people.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：動植物と人との関わり、民族植物学、植物生態学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：言語学、民族植物学、民族語彙、生態人類学、植物利用、ロシア極東、サハリン、ニヴフ

1. 研究開始当初の背景

北東アジア地域の先住民は漁労や狩猟が主な生業とされており、研究例は多い。その一方、植物などの採集については多くの民族で十分調査されていない。すなわち、自然資源の利用という観点からは、動物資源のみが注目され、植物資源の利用は副次的なものとしてしか扱われて来なかった。サハリンのニヴフにおいても、民族誌では狩猟・漁撈等については詳細に記録されているのに対し、植物資源利用に関しては食料や物質文化における素材として触れられている程度であり、採集・保存・利用についての詳細なデータは提示されていない。

あらゆる民族は居住地の植物を資源として最大限利用し、植物利用文化の多様性は、植生帯・植物相などの自然環境の多様性を如実に反映している。獣や魚に比べて種数も圧倒的に多く、微少な環境の違いにより生育種が変わる植物は、自然環境と文化との相互作用を読み解くためには無視できない存在である。従って、この地域でも、民族植物学研究の進展が望まれている。

また、過去の調査で、インフォーマントの認識する植物の「種類」は、生物学的な意味での「種」とは必ずしも一致しないことも明らかとなってきた。従って、民族植物学における同定作業は、インフォーマントの話す植物の種類を単純に生物学的な「種」に当てはめるだけでなく、当人の植物認識における種のカテゴリーや、当該民族の文化における植物の分類体系をも考慮に入れて検討し、どのタクサ（分類群）に該当するかを判断する必要がある。そのためには植物の呼称をも記録することが必要となる。植物名称や関連する語彙は、民族分類など当該民族の植物に対する認識とその変容の集積を反映しており、これを正確に記録することも重要である。

一方、言語学の分野でも、過去のフィールドワークにおいて動植物名称も採録してきたが、ニヴフ語名と現地のロシア語名はわかっても正確な同定ができず、学名・和名がわからない場合も多かった。

そのような経緯で、共同研究を行うこととした。

2. 研究の目的

研究代表者らによるこれまでの研究を発展させた聞き取り調査に、既存文献による情報も合わせ、ニヴフの植物利用文化の全体像を大まかに把握する。同時に、ニヴフ語による聞き取りをも行うことにより、当該地域におけるニヴフ語（西サハリン方言）の植物名称及び関連語彙を採録する。

植物利用に関する情報・語彙のいずれにつ

いても、生物学的な情報から該当する植物を正確に同定し、学名を確定する。得られた項目を、同定したタクサをキーに整理する。最終的には、整理した総ての項目をデータベース化し、和名・ロシア語名も付加する。

3. 研究の方法

(1) 現地調査

3年間の研究期間中、毎年1回、計3回のフィールドワークを実施する。調査地域はサハリン北部のネクラソフカ村を中心とし、インフォーマント数人に聞き取り調査を行う。それぞれ内容をテキスト化し、整理する。同時に先行研究からのデータも集積する。

調査では、どのような植物をどのように利用している（いた）かについて、伝統的なもの・近年に行われるようになったものに関わらず、網羅的に情報を収集する。聞き取りにより収集する情報としては、以下のようなものを想定した。

- ・生物学的情報……………植物のタクサを同定するためのキーとなる情報
- ・採集に関する情報……………時期・方法・場所・道具等
- ・利用に関する情報……………目的・加工法・保存法等
- ・植物認識に関する情報…民俗分類体系・見分け方等
- ・時間軸に関する情報……上記の情報が過去のどの時点までのものか、現在も該当するか等

聞き取り内容は録音・録画により記録する。ニヴフ語で表現できない部分については、ロシア語で聞き取りを行う。

聞き取りは、可能であれば野外で実際の植物を前にして行う。そうでない場合は、上記の生物学的情報を入念に聞き取る。同時に、周辺に自生する植物の標本採集・写真撮影も行い、同定の材料とする。

(2) 帰国後の分析

現地調査の終了後、録音内容をテキスト化する。得られた情報を研究分担者が言語学的な視点から整理するとともに、研究代表者が生物学・民族学の視点から整理し、それをもとに植物の同定作業を行う。

4. 研究成果

(1) 概要

実施計画どおり、3年間で約2週間の現地調査を3回行った。調査地は主にネクラソフカ村であり、この他、ケミ（ネクラソフカから湾を挟んで対岸の砂州）、ノグリキ市、ヌイヴォ（ノグリキから潟湖を挟んで対岸の砂

州) で聞き取りを行うことができた。

ベリー類については、採集時期・場所(環境)等について、従来以上の詳しい情報を得ることができた。サケ・マスの身などと組み合わせた伝統的な料理について、料理法についての詳細な情報が得られ、調理の様子を録画記録することができた。

現代のニヴフの生活におけるベリー類の位置づけについても、採集したベリー、都市部の市場での販売が貴重な現金収入になっているなど、その重要性を確認することができた。

ベリー類以外にも、草本を中心に、従来利用に関する知見の全くなかった植物種について、利用していたという情報を得ることができた。そのうち多くの種について、話者とともに野外で現物を確認することができ、ほとんどの種を同定することができた。例として、タデ科のムカゴトラノオは、むかごを食用にすることが確認された。ヒカゲノカズラ科のスキカズラについては、治療またはまじないのための利用法が確認された。これらについては、既存文献(E. A. クレイノヴィチなどによる民族誌ほか)では触れられていない植物種および、正確に同定されていない植物種を含む。

インフォーマント自身も、ニヴフ語名は知っていてもロシア語名はわからない植物種や、どんな植物か説明しづらいものも少なからずあった。これらは屋内での聞き取り調査だけではどのような植物か確かめることは不可能に近く、これらについて同定できたのは、インフォーマントを連れて野外調査を行い、実物を見ることができた事による大きな成果である。

また、ニヴフ語についても、いくつかの植物名称など、新しい語彙を採録することができた。

(2) 情報が得られた植物

利用に関する何らかの情報が得られた主な植物は、以下のとおり。(学名は、おおむね日本の文献で使われているものを採用しており、変種・亜種レベルでは異なる可能性もある。)

【藻類】

- ・コンブ類 (コンブ科)
Laminariaceae spp.

【シダ植物】

- ・スキカズラ (ヒカゲノカズラ科)
Lycopodium annotinum

【裸子植物】

- ・グイマツ (マツ科)
Larix gmelinii var. *japonica*
- ・ハイマツ (マツ科)
Pinus pumila
- ・リシリビャクシン (ヒノキ科)
Juniperus communis var. *saxatilis*

【単子葉植物】

- ・ハマニンニク (イネ科)
Elymus mollis
- ・ギョウジャニンニク (ユリ科)
Allium victorialis subsp. *platyphyllum*
- ・ネギ属 (ユリ科)
Allium spp.
- ・エゾスカシユリ (ユリ科)
Lilium maculatum subsp. *davuricum*
- ・クロユリ (ユリ科)
Fritillaria camschatcensis
- ・オオバナノエンレイソウ (ユリ科)
Trillium camschatcense

【双子葉植物離弁花類】

- ・イラクサ属 (イラクサ科)
Urtica spp.
- ・ヒメイワタデ (タデ科)
Polygonum ajanense
- ・ムカゴトラノオ (タデ科)
Polygonum viviparum
- ・エゾツルキンバイ (バラ科)
Potentilla anserina var. *grandis*
- ・エゾノウワミズザクラ (バラ科)
Prunus padus
- ・ハマナス (バラ科)
Rosa rugosa
- ・ホロムイイチゴ (バラ科)
Rubus chamaemorus
- ・エゾイチゴ (バラ科)
Rubus idaeus subsp. *melanolasius*
- ・タカネナナカマド (バラ科)
Sorbus sambucifolia
- ・ナナカマド (バラ科)
Sorbus americana subsp. *japonica*
- ・シシウド属 (セリ科)
Angelica spp.
- ・マルバトウキ (セリ科)
Ligusticum scoticum
- ・ゴゼンタチバナ (ミズキ科)
Cornus canadensis
- ・エゾゴゼンタチバナ (ミズキ科)
Cornus suecica

【双子葉植物合弁花類】

- ・クマコケモモ (ツツジ科)
Arctostaphylos uva-ursi
- ・イソツツジ属 (ツツジ科)
Ledum spp.
- ・クロウスゴ (ツツジ科)
Vaccinium ovalifolium
- ・ツルコケモモ (ツツジ科)
Vaccinium oxycoccus
- ・クロマメノキ (ツツジ科)
Vaccinium uliginosum
- ・コケモモ (ツツジ科)
Vaccinium vitis-idaea
- ・ガンコウラン (ガンコウラン科)
Empetrum nigrum var. *japonicum*

- ・ケヨノミ (スイカズラ科)
Lonicera caerulea subsp. *edulis*
- ・ハマニガナ (キク科)
Ixeris repens

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ①水島未記、白石英才、サハリンのニヴフにおける興味深い利用植物、北海道開拓記念館研究紀要、査読無、39巻、2011、pp.125-128

[図書] (計1件)

- ①白石英才、ガリーナ・ローク、札幌学院大学、ニヴフ語音声資料7 ヴァレンティナ・フィリモノヴナ・チャフカン、2010、108

[その他]

報道関連

- ①北海道新聞 2008年8月14日付記事「ニブヒ民族の植物採取文化調査 サハリン道内2研究者が共同で」

アウトリーチ活動

- ①市民サークル「北海道植物友の会」での講演「サハリン北部の自然と先住民の植物利用」、2010年12月4日、於札幌

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水島 未記 (MIZUSHIMA MIKI)

北海道開拓記念館・学芸部・研究員

研究者番号：70270585

(2) 研究分担者

白石英才 (SHIRAISHI HIDETOSHI)

札幌学院大学・経済学部 准教授

研究者番号：10405631

(3) 連携研究者

()

研究者番号：